

## 第3次稚内市総合計画 施策実施状況調査

### 03 感性豊かなひとづくり

#### 03 芸術・文化の普及

##### 02 図書館機能の充実

主要施策	施策実施状況(※1)						問題点、課題
	実施状況	進捗率		第4次の方向性	小項目の総合的評価		
		(%)	ペース		評価	評価内容	
10 新図書館の建設 (図書館)	5	100%	1	4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館が移転新築し、機能が充実されたことにより利用者が大幅に増え、年間貸出冊数は、25万冊と旧図書館の2倍以上となっている。また、利用率では、市民一人当たりで換算すると年間6冊以上の図書が利用されている。</li> <li>・各種事業の展開とボランティア団体の活動により、図書館が親しみの持てる場所となり、さらに図書館を含む周辺地域との連携により「街づくり」に対する市民意識の高揚も図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新図書館の基本計画の最大の目標は「市民の皆さんの心のよりどころとなる施設」であるが、それに終わることなく、必要な資料や情報を必要な市民に的確に案内し、市民の課題解決の手助けとなるような図書館を目指していく必要がある。</li> <li>・各種事業の展開や、毎日の業務の中でよりよい図書館を目指し、様々な市民が集い、本や資料等、全ての情報により学ぶ機会を得て、日々の暮らしのヒントや人としての生き方、あり方を考え、さらには、趣味・娯楽の場の提供を積極的に推進する必要がある。</li> <li>・ボランティア団体との連携を密にし、その活動を通して地域図書館としての役割を果たしていく必要がある。</li> </ul>
20 移動図書館の充実 (図書館)	4	80%	3	1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動図書館は、郊外地区の37ヶ所のステーションに月2回巡回をして図書館利用者の公平化を図っているが、年々利用者数が減ってきている。</li> <li>・図書館を利用しにくい市民(図書館が遠い、子どもが小さくて家を空けられないなど)に対してもある程度公平な図書館サービスを提供することが出来た。</li> <li>・郊外の学校については、定期的な巡回により個人貸出のほか、団体貸出なども行い読書活動の促進を図ることも出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動図書館車による業務のため様々な制約があるが、特に運転手の交代要員がないことや、車両の老朽化等ハード面での脆弱性がある。また、現状に合わせたステーションの見直しも必要。</li> <li>・ソフト面では、図書館資料を有効に活用するため、インターネットによる予約・リクエストサービスや、資料調査サービスの実施等、図書の貸出・返却にとどまらないサービスの展開が今後の課題である。</li> </ul>
30 図書館機能の充実 (図書館)	4	90%	3	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書検索や蔵書管理のOAシステムの導入により、情報の提供と利用サービスの資質の向上となり、また、図書資料の収集や購入においても計画的に実施している。</li> <li>・図書館間の連携を図ることで、利用者の必要とする資料や情報を迅速に提供することができた。</li> <li>・図書館の大きな主催事業として、図書館フェスティバルや図書館まつりに加え、夏休みや冬休み・国民的行事には、幼児・児童生徒を対象とした読書啓発に向けた事業を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館機能や利用者サービスの更なる向上を図るため、図書館司書などの有資格専門職の確保や、歴史的な郷土資料関係を専門的に担当する職員の配置が必要である。</li> <li>・市立図書館と小学校から大学までの学校図書館とが連携を図り、情報ネットワークの構築を進めて行く必要がある。</li> <li>・図書館の利用にインターネット活用等により市民の利便性は向上したが、コンピュータ世代ではない市民に対する対応策が将来的課題となる。</li> <li>・利用者からのアクセスを待つだけでなく、図書館側から働きかけるようなアウトリーチサービスの検討も図る必要がある。</li> <li>・ブックスタート事業や学校図書館支援をより充実させ、次世代を担う人々を育む「ひとづくり」の場としての機能充実が望まれる。</li> </ul>